

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(西京極中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1 「あいさつ・時間・掃除」の指導を軸にした規律ある生活習慣確立の徹底 2 学力向上に直結した授業改善 3 道徳の時間を軸とした心を育む教育の充実

2 .

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成26年10月26日	評価日	平成26年10月27日
						評価者・組織	運営委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	基礎的な学力の定着とわかる授業の創意工夫 家庭での学習習慣の定着 読書の習慣化	校内での研究授業教科会の充実 校外での研修参加 各教科、量よりも質を精選した家庭学習の配布 朝読書の実施と図書室の有効利用 各社新聞を廊下に置いて、生徒がいつでも読める環境づくり	基礎的な学力が身についていますか。先生はわかりやすい授業を工夫していますか。 家庭での学習習慣が身についていますか。 読書の習慣が身についていますか。	「わかりやすい授業を目指した工夫が行われている」と回答している保護者・生徒が多い。 家庭での学習習慣は保護者・生徒もできていないと回答している生徒が多い。 読書の習慣が身についていないと回答している保護者・生徒がほとんどである。	⇒ アンケート結果から、「家庭での学習習慣」や「読書習慣」の定着が本校の課題となっている。本校の生徒の携帯所持率は1・2年生が7割、3年生が8割である。使用時間は2時間以上と回答している生徒が約半数である。携帯電話の使用時間を減らせば家庭学習や読書の時間の増加が期待できそうである。	学校便りや学年便りで西京極中学校の現状を保護者に知っていただき、家庭学習や読書の大切さを再認識してもらう。また道徳や学活など様々な場面で継続した指導を徹底していく。	⇒ ・携帯電話の使用時間を減らすのは保護者の役目で、学校だけでは限界がある。 ・携帯電話の使用時間やテレビを見る時間が減少すれば、読書や学習に時間を費やすのでは・・・？	学校図書館の放課後の開館に向けた今後の取組方針の確認。特に3年生のための自学自習の場として活用方法を模索していく。
2	豊かな心	あいさつや正しい言葉遣いの徹底 生徒が教師に相談できる環境づくり 自分や他人の人権を大切にしようとしている	朝の校門指導 教育相談の実施 道徳の授業や人権学習の指導の徹底	あいさつや正しい言葉遣いができていますか。 困ったことがあれば先生に相談できますか。学校は相談しやすい環境がありますか。 自分や他人の人権を大切にしようとしていますか。	生徒は正しい言葉遣いができている、と回答している生徒が半数だが保護者は逆の考えである。 保護者の多数は学校は相談しやすい環境である、と回答しているが生徒は逆の見解を示している。 大多数の生徒が自分や他人の人権を大切にしようと考えている。	⇒ アンケート結果から、生徒は「あいさつは出来ている」と答えている生徒が大多数だが、教職員は逆の回答を示している。「時間を守って行動する」という項目に関しては生徒は重要度も実現度もすごく高い意識を示している。また「自分や他人の人権を大切にしている」と項目の実現度は保護者も生徒も高い数値を示している。教職員は人権意識の向上のための取組はまだ不十分である、と回答している。	・体験活動や様々な行事の場面で、自らの言葉で表現する場を充実させる。 ・生徒の言葉遣いが悪い場合は教職員がその場ですぐに指導する。 ・教育相談等で生徒が教職員に相談しやすい環境をつくる。	⇒ 様々な行事で生徒が活躍できる場を設定し、「生徒のよさ」を見つけ、褒め、伸ばしていくことを心がける。	・学校運営協議会の活動と学校教育活動の関連付けを理事会でも考えていきたい。 ・地域の方に協力をいただき、大人と中学生との「しゃべり場」を設け、地域と密着した関係を構築する。
3	健やかな体	体育の授業や部活指導の充実 ゲストティーチャーを招いての講座開設	体育の授業の充実ときめ細かな部活動指導の徹底 1・2年生は「非行防止教室」3年生は「薬物乱用防止教室」「性教育講座」の実施	部活動の参加率 万引きや薬物使用はなぜ犯罪なのか？	今年度5月現在の体育系の入部率74.9%、文化系入部率13.9%、計88.8%の生徒が入部している。 触法行為の未然防止の啓発や健全育成の向上を目指す。	⇒ 本校は生徒指導上、比較的落ち着いた状態を保っている。現状を維持し、更に向上させるための継続した指導を続けたい。	心身共に大きく成長していく過程で、3年間中学生らしく、「明るく 正しく たくましく」成長してほしい。	⇒ 生徒の心身の発達を図るため、運動だけではなく、食教育や安全教育の充実を図る。	地域の一員として中学生が活躍できるような場をできるだけ設定する。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 NIE実践推進校の取組	月1度の4校校長会 月1度の4校教務主任会 夏季小中合同研修会 生徒が各社の新聞を読むことができるスペースを確保	小中の連携が組織的に取れていますか。 新聞を読む習慣はありますか。	きめ細かな連携や協力体制ができています。 新聞を読む生徒は全国、京都府を上回る。	⇒ ・小中合同研修会をはじめ4校が忌憚のない意見交換を交わすことができた。 ・管理職や各分掌主任の定例会議も充実した内容だった。	・各校それぞれの公開授業週間に若い教師も足を運び、小中お互いの授業を見て今後の授業に生かされる教材づくりを進めたい。	⇒ 中1ギャップが言われているが、小中が9年間のスパンで目指す子ども像を考える。夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。	西京極中学校区、4校が更なる連携を図り、中学校が地域から更に信頼を得て、地域のシンボリックな存在になってほしい。